

## 第 2 章

# 雇用・失業情勢の動向

緩やかな景気回復基調が続く中で、完全失業率は 2016 年度平均で 3.0% と 1994 年度以来 22 年ぶりの低い水準となり、有効求人倍率は 2016 年度平均で 1.39 倍と 1990 年度以来 26 年ぶりの高水準となるなど、雇用情勢は改善が続いている。本章では、このような 2016 年度の雇用・失業等の動向についてみていく。

## 第 1 節 雇用情勢の概況

### ●雇用情勢は改善を続けており、失業率の低下・求人倍率の上昇は継続

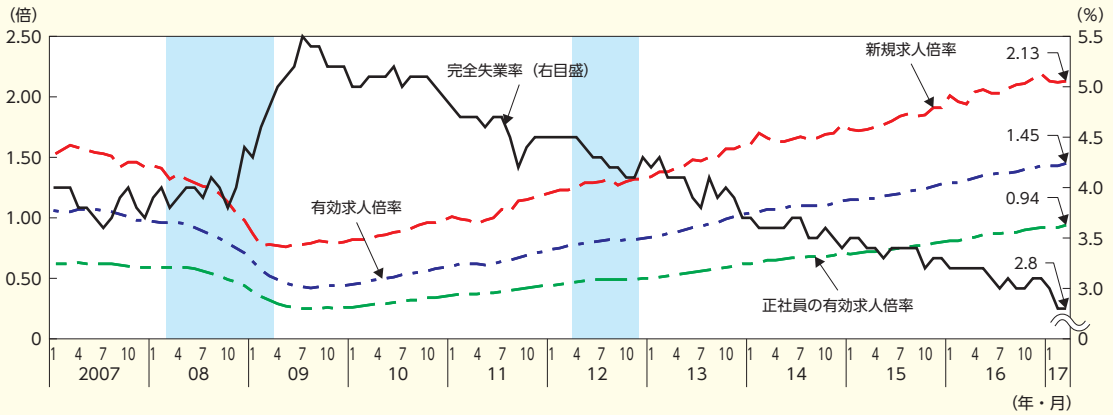
景気の回復を受けて雇用情勢の改善が続いているが、その状況を概観しよう。

第 1-(2)-1 図により、完全失業率と有効求人倍率等の推移をみていくと、完全失業率は 2009 年 6 月を山として低下を続けており、2017 年 2 月には 2.8% と 1994 年 6 月以来 22 年 8 か月ぶりの低い水準に改善した。2016 年度の動きを詳細にみていくと、2016 年 1 月から 5 月まで 3.2% のまま横ばいで推移した後、同年 6 月から 2017 年 1 月まで 3.0~3.1% の間で推移し、2017 年 2 月には 2.8% まで低下した。

一方、有効求人倍率は 2009 年 8 月を谷として上昇を続けており、2017 年 3 月には 1.45 倍と 1990 年 11 月以来 26 年 4 か月ぶりの高い水準となった。また、新規求人倍率は 2016 年 12 月には 2.19 倍と 1973 年 11 月以来 43 年 1 か月ぶりの高い水準となったほか、正社員の有効求人倍率は 2017 年 3 月に 0.94 倍となり、統計を取り始めた 2004 年 11 月以降、過去最高の水準となった。2016 年度の動きを詳細にみていくと、有効求人倍率は 2016 年 4 月の 1.33 倍から上昇を続けており、2017 年 3 月には前年から 0.14 ポイント上昇して 1.45 倍となった。新規求人倍率については、同年 7 月の 2.03 倍から同年 12 月まで上昇を続けて 2.19 倍となった後、2017 年 1 月以降は低下して 2 月には 2.12 倍となったが、3 月は 2.13 倍と引き続き高い水準となっている。

第1-(2)-1図 完全失業率と有効求人倍率の推移

○ 雇用情勢は着実に改善が進んでおり、完全失業率は、2017年2月には2.8%と1994年6月以来22年8か月ぶりの低い水準となり、有効求人倍率は、2017年3月には1.45倍と1990年11月以来26年4か月ぶりの水準となった。



資料出所 厚生労働省「職業安定業務統計」、総務省統計局「労働力調査」をもとに厚生労働省労働政策担当参事官室にて作成

- (注) 1) データは季節調整値。
- 2) 2011年3月から8月までの期間は、東日本大震災の影響により全国集計結果が存在しないため、補完推計値(新基準)を用いた。
- 3) グラフのシャドー部分は景気後退期。